

教育広報

かけはし

第34号 平成10年 6月10日発行
発行 千代田区教育委員会



少年相撲大会

主
な
記
事

☆ 21世紀に向けた教育を目指して
平成10年度がスタート

☆ [座談会] 思春期の子供たち

☆ 活気あふれる神田さくら館

5月17日の日曜日、お茶の水小学校の講堂で少年相撲大会がおこなわれました。

本物の力士2人が見まもるなか、小さな力士たちの力いっぱいのぶつかり合いに、大きな歓声があがっていました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

21世紀に向けた教育を目指して 平成10年度がスタート

千代田区教育委員会の教育目標（概要）

千代田区教育委員会は、教育基本法に則り、「教育と文化のまち千代田区宣言」の趣旨を踏まえ、来るべき21世紀にむけて千代田区の教育の歴史と伝統を継承・発展させ、心身ともに健康で千代田区に誇りと愛着を持つ人間性豊かな区民の育成を目指します。

このため、社会の変化に対応しつつ、学校教育の充実を図るとともに、「生涯学習推進計画」に基づく区民の生涯学習活動を積極的に支援し、もって、個性豊かな文化の創造・発展と豊かな千代田区の形成に貢献することを期して、次の視点を基本として、本区の教育を推進します。

1. 本区における高齢化、情報化、国際化など、社会の急激な変化に伴う区民の学習需要に対応し、家庭教育、学校教育および社会教育・社会体育を充実し、地域社会とも密接な連携を図り、区民の生涯にわたる学習意欲に応えます。
2. 学校教育においては、自他の生命を尊び、心身ともに健全で、社会連帯意識を持ち、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる区民の育成を目指し、生涯学習の基礎を培います。

とりわけ、21世紀に向けた学校教育を目指し、教育環境整備に引き続き努力するとともに、時代の変化に即した教育内容の一層の充実を図ります。

3. 社会教育・社会体育においては、区民が生涯を通じた自己実現と生きがいのある社会生活を営むため、あらゆる機会や場を活用し、区民の多様な学習意欲を充足することのできる諸施策の推進を図ります。

また、今後とも生涯学習施設の充実を図り、より一層学習の機会や場の提供を進めます。

教育委員紹介

三月二十日付で、教育委員会は左記の構成になりました。
教育分野の諸施策に一丸となって取り組んでまいります。



教育委員長
横山 安宏



教育委員長職務代理
石川 晴彦



教育委員
栗岩 英雄



教育委員
曾根 史子



教育委員（教育長）
井澤 一弘

入学・進級

四月に入學式・入園式がおこなわれてから二か月ほど経過しましたが、子供たちは新しい環境の中で、元気に過ごしています。

教育予算

総額 七十億九、四五二万円

三月の区議会定例会において議決された平成十年度予算のうち、子供たちの学習に関連のある教育予算の主なものを紹介します。

自然体験・移動教室・夏季施設
八、三三三万円

小学校は嬉恋・箱根・保田、中学校は軽井沢・保田で実施される、宿泊を伴う行事の経費です。

スクールカウンセラー配置
二〇四万円

今年度から中学校を中心にスクールカウンセラーを派遣し、教職員による児童・生徒へのカウンセリングのための助言を行います。

コンピュータ教育
一億四、八三三万円

小学校のうち二校と全中学校にインターネットを配置するなど、情報化に対応した教育の一層の充実を目指します。

幼稚園預かり保育試行

四六七万円

幼稚園のうち富士見、千代田の二園で正規の保育時間外の保育を試行的に実施します。

海外交流教育・国際理解教育
二、三三四万円

中学校はイギリスのウエストミンスター市立学校との相互交流、小学校では近隣の外国人学校等との交流を通して、国際理解教育を推進します。

校舎・園舎改築
三、九二八万円

麹町小学校・幼稚園の校舎・園舎の改築のための基礎調査、基本設計などにかかる経費です。

施設改修等
四億一、四二三万円

校舎・園舎および校外施設の改修などに要する経費です。

備品整備
四、一五二万円

子供たちの学習をより一層充実させるために必要な備品を購入します。

教育委員会からの お知らせ

事務局の組織改正

これからの学校教育のあり方の検討や区立中学校の再編整備ならびに老朽校舎の改築などを推進するため、教育条件整備担当課を廃止し、副参事（教育環境担当）を新設し、指導室に教育環境主査及び教員人事主査を設置しました。

鎌倉臨海学園は廃園に

平成八年度から休園となっていた鎌倉臨海学園は、平成十年度から廃園となりました。また、同学園で実施していた小学校三年生の夏季施設は、今年度から保田臨海学園で実施します。

千代田幼稚園に専任園長

四月一日付で千代田幼稚園の専任園長として塚本美知子氏が就任しました。これで区内の専任園長は和泉、富士見、昌平幼稚園に続いて四人目となりました。

教育研究所に専任所長

従来、区立教育研究所長については教育委員会事務局指導室長が兼任していましたが、五月一日付で専任の非常勤所長として、青柳健一氏が就任しました。教育研究所は、教育相談部と調査研究部が一体となり、多様化する教育需要に対応してまいります。

平成10年度 学級数・在籍者数

平成10年5月1日現在

区 分	学級数	新入生数	前年度比	在籍者数	前年度比
幼稚園	34	182	32	428	19
小学校	90	358	9	2,534	△179
中学校	42	401	△87	1,396	△155

思春期の子供たち

昨今、思春期の子供たちにさまざまな問題が生じています。思春期は身体も心も変化する微妙で不安定な時期であると同時に、はからずも受験など外部からの圧力を受ける時期です。今号では、思春期の特徴を踏まえながら、周囲ではどのように認識して接していけばよいのかについて、それぞれの専門的な立場からお話ししていただきます。

低下する対人関係能力

藤井 少年犯罪が多発していますが、中学校で実際に子供たちと接していて、お感じになることはありますか。

町沢 先ほど、いい子の話が出ましたが、本当の「いい子」とは、自分の個性を持っていて、主体性を持った自己主張ができて、自立心のある子だと思うんです。ところが、日本の場合、「いい子」と



町沢 静夫氏

で、どんなことが言えますか。

町沢 不安定であることは言うまでもありませんが、最近の事件を見ていると、その背景にある彼らの抱えている圧迫感、閉塞感（ひんさくかん）というものがよく表れているのではないかと思います。いま一番「疲れた」という言葉を発しているのは、小・中学生や高校生です。彼らは本当に疲れています。なぜかと言えば、受験勉強があるのと同時に、集団での遊びが喪失してしまったからです。したがって、ストレスが発散されないのです。その遊びを失ったのは私たち大人です。それによって彼らの対人関係能力が低下し、感情のコントロールができなくなっているという問題が起きている。いじめにしても、不登校にしても、家庭内暴力にしても元をたたせばみな対人関係能力の低下です。

松丸 確かに、子供たちの遊ぶ時間や場所がないなど、いろいろな指摘をする人がいて、子供たちの変化の原因としてそういったことが挙げられるということについては同感です。ただ、あまりに特異な例を挙げて、それだけで学校の現状がどうだ、生徒がどうだとかいって評価する

学校から失われた遊び

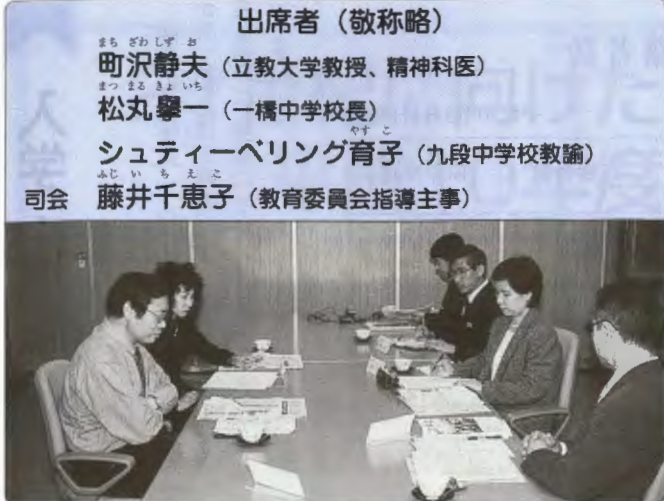
藤井 町沢先生ところでカウンスリングをされていて、何かお感じになることはありますか。

町沢 そうですね。問題になる子供たちの変遷をたどってみると、以前よく見られたのは、対人恐怖（たいじんこふ）というか、あまりにもきちんとしたまきまりの中で育てられて、身動きがとれなくなって自由を失っているような子供でした。ところが、八〇年代から九〇年代にかけて多かったのが、専門用語でいえば「ボーダーライン」で、衝動的で感情の起伏が激しくて社会に対して挑戦的で、それでいて非常に愛情欲求が強く、実は自立心が乏しいんです。それが九〇年代にそれに輪をかけて多くなったのが、「閉じこもり」です。

個に目覚めた人間教育

藤井 これからの学校は、子供にも親にもいろいろなメッセージを送れる場所でありたいのですが、そういった希望がかなえられるような、何かありましたらお願いします。

町沢 私は、本当の意味での日本人流の個人主義をつくることだと思います。日本人には従来から「仲間がないといられない」という意識があって、仲間に入ってもらえないことが、いじめられたということにつながってしまいます。欧米では「私は私」という個人主義が徹底していますから、仲間に入れてもらえなくても、いじめられたとは思いません。また、親友という概念にしても、だいたい仲よく遊べる子のことだということだと思いますが、本当の親友は、自分の悩みを相談できる仲間ではないかと思えます。でも今の子供たちは、そういうことを相談すると、ネクラだって嫌われてしまうので、楽しい話しかしないという「偽装親友」ばかりができてしまう。それは、今言ったように、仲間に入りたいからです。「私は私。一人でもいい」というのが早い段階からある程度できていけば、いじめや不登校や偽装親友も少なくなると思えます。



出席者（敬称略）
 町沢静夫（立教大学教授、精神科医）
 松丸 一（一橋中学校長）
 シュティーベリング育子（九段中学校教諭）
 司会 藤井千恵子（教育委員会指導主事）

初めは不登校を起こしていたのが、だんだん部屋に閉じこもって、しまいは外に出なくなってしまう。ここまでプレッシャーをかけている一番の原因は、先ほどから話に出ている「学歴社会」です。ね。そして、ほかの学校との競争を余儀なくされて、学校が勉強本位となることにより、子供たちが集まれる唯一の場所である学校から「遊び」が失われている。もう一度、学校での遊びを復活してほしいですね。

松丸 この間の学校での全体保護者会で、私はこう言いました。「学校から勉強を取りはらって、例えば、子供たちと朝、日の出とともに起き、おにぎりを持って山へ行き、汗をかいだあとで食べるおにぎりがこんなにおいしいものかと、また、半月、一か月だけでもいいから、テレビも何もない生活をしたら、子供たちはきっと、本を読みたいとか勉強したいというふうになるのではないかと。」
シュティーベリング 私は学校で図書室の担当も受けていますが、実際、子供たちも「自分の将来のことを考えなければならぬが、ずっと本も読みたい。でも時間がないんです」と言っています。

家庭と学校の絆が大事

シュティーベリング 日本の特異な点として、「学力さえよければすべてよし」みたいなところがありますよね。
松丸 子供の中でそういうことがあるのは、振り返ってみれば私たち大人の社会



松丸 一氏

にも同じことがあるからだと考えると、思います。つまり、今いろいろ言われている子供の問題は、みな大人の問題、社会の問題である。本当はそこから根本的に変えていかないと、変わらないですよ。ただ、学校という現場にいる人間の一人として、この際あえて申し上げたいのは、「子育ては親の責任で、親が一生懸命取り組みなければならぬ仕事です」ということを言いたいですね。子供のほうも、親が自分のことに一生懸命になってくれているという意識を持つようになりま。

シュティーベリング 昨年度一年生の担任をして、一年生全員にアンケートをとったんですが、「親に感謝していますか」という問いに、多くの生徒が「はい」と答えていました。親に感謝しているということがある子供って、もっと少ないのではと思っていたんですが、素晴らしいことだと思えます。

町沢 先ほど、いい子の話が出ましたが、本当の「いい子」とは、自分の個性を持っていて、主体性を持った自己主張ができて、自立心のある子だと思うんです。ところが、日本の場合、「いい子」と

は、「親にとつてのいい子」となってしまう。親に気に入られる人間になろうとして、自分の中身を親に預けてしまうわけですから、そして社会に出ていくときは、自分のアイデンティティーが弱いということになってしまいます。また、だんだんと家族において子供が中心になっていることが、日本の特徴となっている。小さい頃から、子供が権力を握ってしまっている。家庭内暴力は、この弊害が現れた結果であると言えると思います。
シュティーベリング 私は以前ドイツにいたことがありますが、長い間続いている教育と新しい教育の二種類があり、この二つがいつもしっかりと合わさっています。こういう言い方はあまりよくありませんが、日本の場合新しい教育に目を向けるあまり、長い歴史のよき礎（いしづ）までが流れていってしまったところがあったような気がします。
 ドイツでは「両親のタベ」といって、月一回両親が夜に集まる保護者会があります。そこでは、担任の先生から提起された問題について話し合うこともあれば、親御さん側から出された問題について話し合うこともあります。日本でも教育に、特に男性の方も参加できる場が必要だと思います。

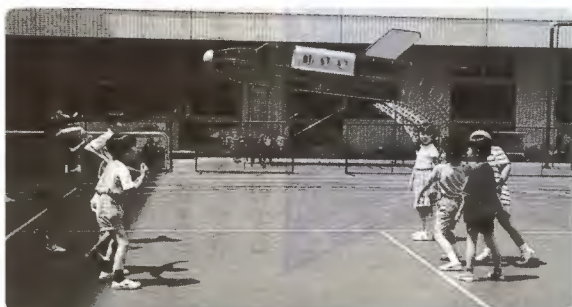
松丸 昨年やっと一回だけできたんですが、お父さん方も学校にきて、そういう子供たちの様子をみていただき、さらによくするにはどうしたらいいか、一緒に考えていたかったです。その時、「仕事とかゴルフと言って、子供から離

活気あふれる神田さくら館

3月から温水プール、まちかど図書館、教育研究所がオープンした神田さくら館。
4月からは千代田小学校・幼稚園も移転しました。コミュニティスクールとして多彩な活動がくり広げられている様子を紹介します。



▲新入園児を迎え楽しい歓迎会（4月28日）



▲子供たちが集う校庭は2階に



▲様々な活動が可能な多目的ホール



▲5月のお誕生給食会（小学校）



▲年間を通じて利用される可動床式温水プール



▲夕方からは一般開放される体育館

千代田小学校に 生ごみ処理機を設置

このたび、千代田小学校に一日約三十五キログラムの処理能力がある生ごみ処理機が設置されました。（写真）
この機械は、給食から出る生ごみを水と炭酸ガスに分解でき、子供たちへの環境教育にも役立つものと期待されています。



○平成10年度教科書展示会のお知らせ
（期間）平成10年6月26日（金）から
7月15日（水）まで
開館9時～17時／土・日・休館
（会場）千代田区立教育研究所
7階教科書センター（神田まちかど図書館からお入りください）

シュティーベリング 私は、十歳くらいまで自分の考えを自分で発して周りに訴えていく力、そして周りの意見を聞く力をつけさせることが大切だと思っています。そういう根底の人間教育をした後に九九や漢字を覚えさせても遅くはないと思います。自分で自分の意見を言えるというところが、個人主義につながると思います。個人主義は、自己責任、さらには他人を理解すること、相互理解につながっていくと思います。

町沢 本当の自分があるから、自分と同じように相手も一人の人間なんだということ、共感がわくようになりますね。

藤井 そのようにして、コミュニケーションのとれる最たる場所は、やはり学校ということになると思います。

松丸 教育課程の枠もありますが、もつと学校の主体性や先生の自由な発想を生かすようにして、授業や遊びや体験を積み重ねるような教育活動を行っていきたいと思います。

町沢 個人主義の話をしましたが、それでも人間は「人の間」と書くとおろし、人と交流しなければ、元気にはなりません。私の病院では、患者に対して特に指導しているというわけではありません。彼らを集めて、遊ばせるだけです。それで、お互いの心が通い合うようになるだけで元気になっていきます。ですから、学校はそれをしてくれるいいと思います。

シュティーベリング 私も、自分の美術の授業の中で、人と人との結びつきを大切にしようという工夫をしようと思っています。



シュティーベリング育子氏

ます。材料をみな家から持ってくるように言つと、持っていない子もいて、材料をこっそり分け合ったり、お互いにうまく創るよう試行錯誤したりしています。そういう光景は実に微笑ましいものです。

町沢 私のところにいる不登校の子供は、学校がなぜいやかという、みんながソロソロ集まって、一斉に先生の方を向いて、同じことを聞いて同じことをしているのがこわいからだと、言っています。また、もう一人印象深い不登校の中学生がいたんですが、彼はコンピュータが好きで、自分で作ったソフトが大人に混じって入選したんです。その子は「コンピュータは自分で勉強できるから好き。でも学校は受動的に学ばなければならぬから嫌いだ」と言っていました。私はそれを聞いて自分が説教されているような気持ちになりました（笑）。

シュティーベリング その点を改革しようとして、いま各学校で多くの先生がいろいろ試みています。

松丸 やりたいことだけをやるということとは是非は別にして、そういう「個」に目覚めたというのは、社会全体が「個」の存在を意識し始めたからと言えますね。

決して人と 比較しない

藤井 家庭に対して、何か提言があればお願いします。

松丸 保護者会でいつも言っているのは「子育てというのは、一大事業です。人生の中でこれほど大きな事業はほかにはありません」ということ、「決して人と比較しないで」ということです。「人と比較すること」があらゆる問題の元凶になっている。子供にお金をかけて、高学歴を押しつけることが子育てではありません。時には厳しく、時には愛情をもつて、子育てをしてほしいと思います。

また、子供が中学校へ入ったからといってもう手が離れたとは思わないでほしい。思春期を迎えてむしろこれから子供との精神的なつながりが大切になってきます。

町沢 よく「恥ずかしいからやめなさい」とか「みっともないからやめなさい」といって叱っている親や先生がいますが、これはまさに人と比較していることにほかなりません。これはまた「あなたがしていることで、私を恥ずかしめるから、やめなさい」という、非論理的な叱り方です。「なぜしてはいけないのか」を教え諭すのがしついです。家庭でも学校でもそのあたりに気をつけたいものです。

シュティーベリング 家庭のしつけについて極端に言つと、一つは「あれをしてはいけない。これをしてはいけない」という、俗に言う伝統的な厳しいしつけで、もう一つは、「個」を認め、自由を尊重

するような新しい考え方があります。その両方があるのが今の日本で、しかも、往々にして流行のようにしつけが変わる風潮が見られるような気がします。家庭では一つの方針をもっていたきたい。

町沢 本当は理想を言えば、思春期は子供だけで集ってほしいんです。親も先生も入らなくて、子供だけの社会をもつていけば、おのずとお互いに感情教育や倫理観、対人関係を学ぶようになります。しかし、日本では例えば学校で先生が介入しなければ、部活が部活として成立しなくなることが多い。それは、子供にその段階での力が備わっていないからです。だから、家庭や地域で強い子供を育てましようということです。ただ、共同体、コミュニティがなくなってしまう、みんなが子供を育てるという風土がなくなってしまう。でも、人間はコミュニティなしには生きられません。これから新しいコミュニティをどのようにしてつくるか、みんなで考えなければなりません。

藤井 中学生を巡る様々な今日的課題につきお話しいただきました。子供たちは多くの人々とかかわり合うことをとおしてコミュニケーション能力を培っていきまします。その中で「自分のことは自分で語る」ことができる人間に育っていくことが大切ですね。一方、私たち大人も様々な場面での子供たちとの出会いを一つ一つ大切にしながら、生徒がたくましく健康やかに成長できるよう、家庭・地域と学校が力を合わせていきたいものです。

随想

きょういく

平成十年四月六日、勤務校に、五十二名の新一年生を迎えました。二か月たった今、緊張感もすっかり取れ、学校での生活を楽しんでいこうと安心していきます。ところが、四月も半ばを過ぎたころ、一年生のある保護者から、「言葉遣い」に関する学校への強い要望と大きな期待を寄せるおたより、

「・・・日本語の美しさを子供たちに感得させ、正しい使い方を是非身に付けさせて欲しい。そのために果たす小学校の教師一人一人の役割は大きい・・・」をいただき、その責任の重さをあらためて痛感いたしました。

子供たちの「ことば」の乱れが指摘されてから久しくなります。よくなるばかりか、その乱れが一層ひどくなっている事態を憂慮せざるをえません。乱暴な言葉遣いをする、敬語が使えない、おかしいアクセントで話す、短絡的で中味のあつた話ができない、おしゃべりは得意だが、話は苦手等々——だが、子供たちはそんな言葉遣いでも、結構仲よく、楽しそうに語り合っています。しかし、その内容たるや他の心を傷つけるのではないかと思われるような、ギョツとするような言葉が何のためらいもなく、次々と口をついて出てくるし、聞いている方も何も感じない様子です。話し手も聞き手も言葉の感性が麻痺しているのではないかと思

われるほどです。

言葉は、いわば生活の手段ですから、時代や世の中の変化とともに変わることにはありますが、そのような言語学的な変化とは殆んど関係なく変わってきているのが昨今の現実です。原因には、さまざまありましよう。よくテレビやマンガの影響であるといわれるが、どうなのでしょう。

ようか。

学習指導要領の総則の中に、配慮事項として、「学校生活全体における言語環境を整え、児童生徒の言語活動が適正に行われるように努めること。」と示されています。わざわざ学習指導要領の中に小・中学校とも取り上げられていることは、子供たちの実態をふまえてのこと

正しい言葉のしつけ

千代田区立
富士見小学校長

鈴木清司



あり、学校教育の場で、危機感をもって対処すべきことを示していると受け止めなければならないと考えます。

言葉は、単に自分の思うことを他人に伝えるためのものばかりでなく、自分が考えるのも、言葉によつてです。だから、乱れた言葉遣いや、単純な言葉しか知らなければ、思考も乱れ、深まらず、単純なことしか考えられなくなるのではないのでしょうか。

他の学校に伺って授業を参観する機会がありますが、よく教室の前面に、正しい話し方についての掲示を見かけます。子供たちの話し言葉を正しくするためにとってもよいことだと思ひます。教師自身の話す言葉、話し方、板書する文字から、配布する印刷物や掲示物などの文字にも十分配慮する必要があります。

また、家庭におかれても、正しい言葉遣いを是非しつけのひとつに加えていただきたいと願っています。そのために、学校との協力をさらに深めながら、言語環境としての私たち大人が、昨今の言葉の乱れのさまざまな原因に動かされず、まず、身をもつて正しい言葉遣いの範を示さなければと考えます。

すずき きよじ
区立小学校長会長

きょういく 随想

編集後記

入園式、入学式、そして始業式から二か月、子供たちのにぎやかな会話が聞こえて来るようです。

いよいよ梅雨です。夏至を前後に約四十日間曇天と雨の日々が続きます。梅雨は植物の成長にとって大切な役割を担っています。雨の日が続くと憂鬱な気分になりがちですが、植物の謳歌に耳を傾け、梅雨明け後の青い空と白い雲を描きながら心を晴れにして生活に励みましょう。

今号では、「思春期の子供たち」をテーマにした座談会の内容を掲載しました。人が成長していく過程に訪れる思春期。それは大人になっていくための大切な時期です。周囲の人が温かい心で接することや、適切なアドバイスを贈ることも大切なことと思います。

さて、今年もウエストミンスター市立学校生徒十三名が来日しました。次号で様々な活動の様子を紹介したいと思ひます。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第三十四号
平成10年6月10日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102-8688 千代田区九段南1-6-11
☎(3264)0151 内3114